

ボード会議議事録

外部評価としてのまとめ

令和4年4月13日
東京大学先端科学技術研究センター

令和3年度に係る業務の実績に関するボード会議助言・意見

○令和3年度に係るボード会議の内容……………P3

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

I. 評価の項目……………P5

II. 評価の分析……………P6

○令和3年度に係るボード会議の内容

東京大学先端科学技術研究センター(先端研)のボード会議は、運営状況を常時把握し、運営全般に対する助言及び評価を行っている。

本年度は、下記の日時において会合を開催した。また、当日欠席のメンバーについては、日時を改め助言および評価を得た。

日 時:令和3年11月12日(金) 15:00~18:25

場 所:先端研13号館109会議室、4号館2階講堂およびZOOMによるTV会議

出席者:以下のとおり

【ボードメンバー】

氏名	職名
大隅 典子	東北大学 副学長
大西 隆	東京大学 名誉教授
小泉 英明	(株)日立製作所 名誉フェロー
小松崎 常夫	セコム(株) 前顧問
西村 陽一	(株)朝日新聞社 前常務取締役
晝馬 明	浜松ホトニクス(株) 代表取締役社長

【先端研】

氏名	職名
神崎 亮平	所長、教授(生命知能システム分野)
中村 尚	副所長、教授(気候変動科学分野)
近藤 高志	副所長、教授(高機能材料分野)
石北 央	教授(理論化学分野)
小泉 秀樹	教授(共創まちづくり分野)
杉山 正和	教授(エネルギーシステム分野)
高橋 哲	教授(光製造科学分野)
牧原 出	教授(政治行政システム分野)
宮崎 敏朗	事務長
海老澤 幹夫	経営戦略企画室 副室長

欠席された下記のメンバーと別途会合をした日は、次のとおり。

増田 寛也	日本郵政(株)取締役兼代表執行役社長 会合の日:令和4年1月11日(火)
武藤 敏郎	(株)大和総研 名誉理事 会合の日:令和4年1月11日(火)
浅川 智恵子	IBM フェロー、日本科学未来館館長 会合の日:令和4年1月25日(火)

○令和3年度に係るボード会議の内容 (会議議事次第・内容)

◆15:00-16:30 第1部 所長候補選任

先端研内規の規定により、大隅委員が議長に互選され、就任した。第1部は、所長候補の選任であり、慎重審議の結果、杉山正和教授を所長候補として選任した。

◆16:45-17:35 事業報告(プレゼンテーション)

大隅委員が神崎所長より議長として指名されて、議長となった。先端研所長の神崎亮平教授より、資料に基づきプレゼンテーション形式にて、先端研の事業活動として、説明を行った。内容としては、神崎所長より任期6年間の報告がおこなわれた。

◆17:35-18:25 事業報告(質疑応答)

ボード会議からは、先端研の現状を踏まえて、組織運営、教育研究活動に対して総合的な観点から多くの有益なご意見、ご助言をいただいた。

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

I. 評価項目

ボード会議メンバーの意見を助言および評価として、つぎの内容としてまとめた。

	項目	助言、評価の内容
1	研究力	(1) 学際的に調和のある研究活動が評価された。 (2) 社会実装のスピードを速めることへの期待の意見があった。 (3) 利他の考え、倫理というものが、より重要となるとの意見があった。
2	人事体制	所長のリーダーシップと、それを支えるブレーン組織が評価された。
3	財務体制・社会連携	(1) 外部資金の獲得が評価された。 (2) 地域連携の実績が多数あることが評価された。
4	教育	拡大する研究分野を学生教育、人材育成に反映させるべきとの意見があった。
5	その他	先端研の「分かりやすさ」というのは最終的には理解しやすさではなくて、先端研の信頼や安心、先端研がやってくれたら安心できるなどということであるとの意見があった。

○ボード会議の外部評価としてのまとめ

II. 評価の分析

研究力、人事体制、財務体制などに対する助言ならびに評価の観点から、内容を項目別に整理し、次のように分析をすすめた。

分析項目	内容
評価事項	優良な、あるいは順調に進行していると評価された内容のもの
検討事項	事業推進にあたり検討するものとして助言をいただいたもの
付帯意見	事業推進にあたり念頭に置くべき事柄として助言のあったもの

1. 研究力

先端研では、研究プロジェクトの社会実装のスピードを上げること、文理、アートの融合のフロンティアとして哲学、倫理を考察することが意見された。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
研究力	学際的に調和のある研究活動が評価された。 迅速な意思決定、アートと科学の進展、研究倫理・科学リテラシーの確立、子供たちの育成など素晴らしい成果である。 アート、デザインは範囲が広く、いろいろなことで活用できる。	社会実装のスピードの遅さを打破すべきである。	社会実装にあつては、サイエンス、エンジニアリングにおいて利他主義、倫理というものが、非常に重要な分野となってくる。 アートは、トランスディシプリナリーなアプローチをするときに、中心として非常に重要である。 政治や法律の分野が、サイエンスを真面目に取り込んでいただきたい。 先端研ならば本物のサービスを科学的に、かつ工学的に仕上げるのが可能である。

2. 人事体制

所長のリーダーシップを支えるブレーン組織の支援体制、調和ある所長選考会議の内容が評価された。また、インクルージョン、ダイバーシティに対する意見があった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
人事体制	<p>所長のリーダーシップを実現するには周りのブレーンがしっかりしている</p> <p>次期所長を選任する今回の会議は、他の機関の同様の会議と比べて内容が良かった。</p>	意見なし	<p>まさに戦略会議というのは、そのメンバーであって、これは教授会の先生方から信頼がないと全く動かない。これというのは先端研の非常に大きな特徴である。</p> <p>女性は、本来は50・50で生まれてくるのでマイノリティーではない。残念ながら特に理工系の分野などにおいては十分に活躍ができていない。</p>

3. 財務体制・社会連携

多くの外部資金を獲得しているとの評価があった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
財務体制	<p>多くの外部資金の獲得が出来ている。</p> <p>20件もの地域連携の実績が出来ている。</p>	意見なし	意見なし

4. 学生教育

学生教育については、先端研の研究分野の拡大を反映させること、また中高生に対する支援も重要であるとの意見もあった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
その他	意見なし	新しい研究分野、拡大する研究分野を学生教育、人材育成に反映させるべきである。	中高生に向けた理系教育支援をさらにすすめてほしい。

5. その他

コロナウィルスの影響に対して、社会実装をすすめることや、研究活動の分かりやすさと、それに伴う信頼が重要であるとの意見があった。

項目	評価事項	検討事項	付帯意見
その他	意見なし	意見なし	コロナの影響で先読みが出来ない中でも、社会実装をすすめてはどうか。 先端研の「分かりやすさ」というのは最終的には理解しやすさではなくて信頼や安心、先端研がやってくれたら安心できるなというのが本当は、その「分かりやすさ」が意味する一番大事なところだろう。 研究倫理(コンプライアンス)を考える研究風土を構築すべき